

朝布麻須等六
其草深野

1

玉たま冠かぶ春はる
内うち乃の大おほ野の介に
馬うま數な而め
朝あさ布ふ麻ま須す等ら六む
其その草くさ深ふか野の

卷一四
間人老はしひとのおゆ

1

潮毛可奈比沼
今者許藝乞菜

2

熨にぎ田た津つ介に
船ふな乘のり世せ武む登と
月つき待ま者ば
潮しほ毛も可か奈な比ひ沼ぬ
今いま者は許こ藝ぎ乞いて菜な

卷一八
額田王ぬかたのおおきみ

2

野守者不見哉

3

茜あかね草ねさ指さす
武む良ら前さき野の逝ゆき
標しめ野の行ゆき
野の守もり者は不み見ず哉や
君きみ之が袖そで布ふ流る

卷一一〇
額田王ぬかたのおおきみ

3

芳野吉見与
良人四来三

4

淑よき人ひと乃の
良よし跡と吉よく見み而て
好よし常と言い師ひし
芳よし野の吉よく見み与よ
良よき人ひと四よ来く三みつ

卷一二七
天武天皇てんむてんのう

4

京都乎遠見
無用尔布久

5

姪うね女め乃の
袖そで吹ふ反かへす
明あ日す香か風かせ
京みやこ都を乎と遠ほ見み
無いた用づら尔に布ふ久く

卷一一五一
志貴皇子しきののみこ

5

見乍思奈

許湍乃春野乎

6

巨勢山乃こせやまの
列と椿つらつらつばき
都良つらつらとこ介に
見乍思奈みつしのはな
許湍乃春野乎こせのはるの

坂門人足さかどのひとり
卷一—五四

6

得難尔為云

安見兒衣多利

7

吾者毛也われはもや
安見兒得有やすみこえたり
皆人乃みなひと
得難尔為云えかてにすといふ
安見兒衣多利やすみこえたり

藤原鎌足ふじわらのかまたり
卷二—九五

7

吾立所沾

山之四附二

8

足日木乃あしひきの
山之四付二やまのしづくに
妹待跡いもまつと
吾立所沾わがたちぬれし
山之四附二やまのしづくに

大津皇子おおつのみこ
卷二—一〇七

8

真幸有者

亦還見武

9

磐白乃いはしろの
濱松之枝乎はままつがえを
引結ひきむすび
真幸有者まざきくあらば
亦還見武またかへりみむ

有間皇子ありまのみこ
卷二—一四一

9

妹乎将求

山道不知母

10

秋山之あきやまの
黄葉乎茂もみちをしげみ
迷流まとひぬる
妹乎将求いもをもとめむ
山道不知母やまぢしらすも

柿本人麻呂かきのもとのみとまろ
卷二—二〇八

10

情毛思努尔
古所念

11

不盡能高嶺尔

12

雪波零家留

淡海乃海 あふみのうみ
夕浪千鳥 ゆふなみちどり
汝鳴者 ながなげば
情毛思努尔 こころもしのに
古所念 いにしへおもほゆ

11

柿本人麻呂
卷三―二六六

薰如

今盛有

13

青丹吉 あきによし
寧樂乃京師者 ならのみやこは
咲花乃 さくはなの
薰如 いほがごとく
今盛有 いまざかりなり

13

小野老

卷三―三二八

平城京乎

御念八君

14

藤浪之 ふちなみの
花者盛介 はなはざかりに
成来 なりにつけり
平城京乎 ならのみやこそ
御念八君 おもほすやきみ

14

大伴四綱

卷三―三三〇

濁酒乎

可飲有良師

15

驗無 しるしなき
物乎不念者 ものをおもはずは
一坏乃 ひとつきの
濁酒乎 にごれるさけを
可飲有良師 のむべくあるらし

15

大伴旅人

卷三―三三八

此照月者
滿闕為家流

世間者よのなかはむなしきもの
空物跡あらしきもの
將有登曾あらむとそ
此照月者このてるつきは
滿闕為家流みちかけしける

作者未詳さくしゃみしやう

卷三—四四二

心者雖念
直不相鴨

三熊野之みくまのの
浦乃濱木綿うらのばまゆふ
百重成ももへなす
心者雖念こころはもへど
直不相鴨ただにあはぬかも

柿本人麻呂かきのものひとまろ

卷四—四九六

君尔吾戀
情示左祢

二寶鳥乃にほどりの
潜池水かつくいけみづ
情有者こころあらば
君尔吾戀きみにわがこふる
情示左祢こころしめさね

大伴坂上郎女おわたものさかのうえのいらつめ

卷四—七二五

奈良乃美夜古尔
由吉帝已牟丹米

多都能馬母たつものまも
伊麻勿愛豆之可いまもえてしか
阿遠尔与志あをによし
奈良乃美夜古尔ならのみやこに
由吉帝已牟丹米ゆきてこむため

大伴旅人おわたものたびと

卷五—八〇六

奈岐互伊奴奈流
烏梅我志豆延尔

波流佐礼婆はるされば
許奴礼我久利豆こぬれがくれて
宇具比須曾うぐひすそ
奈岐互伊奴奈流なきていぬなる
烏梅我志豆延尔うめがしづえに

山口若麻呂やまぐちのわかまろ

卷五—八二七

清河原尔
知鳥數鳴

21

ぬばたまの
鳥玉之
よのふけぬれば
夜乃深去者
ひさきおふる
久木生留
きよきはらに
清河原尔
ちどりしばなく
知鳥數鳴

やまへのあかひと
山部赤人
卷六一九二五

21

水鳥二四毛有哉
家不念有六

22

たまもかる
玉藻苅
からにのしまに
辛荷乃嶋介
しまみする
嶋廻為流
うにしもあれや
水鳥二四毛有哉
いへおもはざらむ
家不念有六

やまへのあかひと
山部赤人
卷六一九四三

22

照有月夜乃

23

見者悲沙

ぬばたまの
鳥玉之
よぎりのたちて
夜霧立而
おほほしく
不清
てれるつくよの
照有月夜乃
みればかなしさ
見者悲沙

おおむしものさかのうえのいらつめ
大伴坂上郎女
卷六一九八二

23

人乃眉引

24

所念可聞

ふりさけて
振仰而
みかづきみれば
若月見者
ひとめみし
一目見之
ひとのまよびき
人乃眉引
おもほゆるかも
所念可聞

おおとものやかもち
大伴家持
卷六一九九四

24

星之林丹

25

榜隱所見

あめのうみに
天海丹
くものなみたち
雲之波立
つきふね
月船
ほしのはやしに
星之林丹
こぎかくるみゆ
榜隱所見

かきものひとまろかしゆう
柿本人麻呂歌集
卷七一〇六八

25

明少

夜者更下乍

26

うなはらの
海原之
みちどほみかも
道遠鴨
つくよみの
月讀
ひかりすくなき

明少

よはふけにつつ
夜者更下乍

さくしゃみしよ
作者未詳

卷七一一〇七五

26

弓月高

雲立渡

27

あしひきの
足引之
やまがはのせの
山河之瀬之
なるなへに
響苗介
ゆつきがたけに
弓月高
くもたちわたる
雲立渡

かきのもとひとまるかしゅう
柿本人麻呂歌集
卷七一一〇八八

27

毛要出春尔

成来鴨

28

いはしる
石激
たるみのうへの
垂見之上乃
さわらびの
左和良妣乃
もえいづるはるに
毛要出春尔
なりけるかも
成来鴨

しきのみこ
志貴皇子
卷八一一四一八

28

可伎數者

七種花

29

あきのの
秋野介
さきたるはなを
咲有花乎
およびせり
指折
かきかぞふれば
可伎數者
ななくさのはな
七種花

やまのうえのおくら
山上憶良
卷八一一五三七

29

鳴奈流鹿之

音遙者

30

あきはぎの
秋芽之
ちりのまがひに
落乃乱介
よびたてて
呼立而
なくなるしかの
鳴奈流鹿之
こゑのはるけ
音遙者

ゆはらのおわきみ
湯原王
卷八一一五五〇

30

置此庭尔
蟋蟀鸣毛

31

今日零雨尔
落香過奈牟

32

浮去良武
山河之瀬尔

33

梅乎插頭而
此間集有

34

立座
妹念

35

暮月夜 ゆふづくよ
心毛思努尔 こころもしのに
白露乃 しらつゆの
置此庭尔 おくこのにはに
蟋蟀鸣毛 こほろぎなくも

湯原王 ゆはらののおきみ
卷八一五五二

31

明日香河 あすかがは
逝廻丘之 ゆきみるをかの
秋芽子者 あきはぎは
今日零雨尔 けふふるあめに
落香過奈牟 ちりかすぎなむ

丹比国人 たじひのくにひと
卷八一五五七

32

足引乃 あしひきの
山之黄葉 やまのみちば
今夜毛加 こよひもか
浮去良武 うかびゆくらむ
山河之瀬尔 やまがはのせに

大伴書持 おおとものふみもち
卷八一五八七

33

百礮城之 ももしきの
大宮人者 おほみやびとは
暇有也 いとまあれや
梅乎插頭而 うめをかぎして
此間集有 ここにつどへる

作者未詳 さくしやみしやう
卷十一一八八三

34

春楊 はるやなぎ
葛山 かづらぎやまに
發雲 たつくもの
立座 たちてもあても
妹念 いもをしそおもひ

柿本人麻呂歌集 かきのものひとまろかしゆう
卷十一一二四五三

35

君乎不言者
念衣吾為流

36

君尔戀毛
我之心柄

37

加奈思吉兒呂我
尔努保佐流可母

38

和礼尔余須等布
麻末乃互胡奈乎

39

伎弥之布美互婆
多麻等比呂波牟

40

斑鳩之
因可乃池之
宜毛
君乎不言者
念衣吾為流

36

我情
烧毛吾有
愛八師
君尔戀毛
我之心柄

37

筑波祢介
由伎可母布良留
伊奈乎可母
加奈思吉兒呂我
尔努保佐流可母

38

可都思加能
麻末能手兒奈乎
麻許登可聞
和礼尔余須等布
麻末乃互胡奈乎

39

信濃奈流
知具麻能河伯能
左射礼思母
伎弥之布美互婆
多麻等比呂波牟

40

卷十二一三〇二〇
作者未詳

卷十三一三二七一
作者未詳

卷十四一三三五二
東歌・常陸国

卷十四一三三八四
東歌・下総国

卷十四一三四〇〇
東歌・信濃国

麻具波思兒呂波

多賀家可母多牟

しもつげの
之母都家野
美可母乃夜麻能
許奈良能須
麻具波思兒呂波
多賀家可母多牟

東歌・下野国

卷十四一三四二四

安礼波伊多良牟

祢度奈佐利曾祢

あだたらの
安太多良乃
ねにふすし
祢介布須思之能
あ里つと毛
安里都と毛
安礼波伊多良牟
祢度奈佐利曾祢

東歌・陸奥国

卷十四一三四二八

安我多知奈氣久

伊伎等之理麻勢

きみがゆく
君之由久
うみへのやど
海邊乃夜杼介
きりたとたば
奇里多と婆
あがたちなげく
安我多知奈氣久
いぎとしりませ
伊伎等之理麻勢

作者未詳

卷十五一三五八〇

美知乃久夜麻尔

金花佐久

すめろぎの
須賣呂伎能
みよさかえむと
御代佐可延牟等
あつまなる
阿頭麻奈流
みちのくやまに
美知乃久夜麻尔
くがねはなざく
金花佐久

大伴家持

卷十八一四〇九七

下照道尔

出立媿孀

はるその
春苑
くれなゐにほふ
紅介保布
もものはな
桃花
したてるみちに
下照道尔
いでたつをとめ
出立媿孀

大伴家持

卷十九一四一三九

朝己藝思都追
唱船人

朝己あきどに
朝床あきどに
聞者きけはるけし
射水河いみづかは
朝己あきど藝思ぎし都追つ
唱船人うたふなびと

大伴家持

卷十九一四一五〇

韓國邊遣

大船おほふねに
真梶まかぢ繁貫しじぬぎ
此吾子乎このあこを
韓國邊遣からくにへやる
伊波いは敝神へかみ多智たち

光明皇后

卷十九一四二四〇

伊波敝神多智

許能暮影尔

春野はるのに
霞多かすみ奈毗なび伎ぎ
宇良悲うらがなし
許能暮影尔このゆふかげに
鶯うぐいす奈久母なくも

大伴家持

卷十九一四二九〇

情悲毛

宇良うら宇良うら良らに
照流てれる春日はるひに
比婆理安我里ひばりあが
情悲毛こころかなしも
比登里志於母倍婆ひとりしおもへば

大伴家持

卷十九一四二九二

比登里志於母倍婆

互里氏多互流波

見和みわ多世たせ婆ば
牟加都乎能倍乃むかたつをのへ
波奈はな保比ほひ
互里氏多互流波てりてたてるは
之伎多我こしきたが都麻つま

大伴家持

卷二十一四三九七

之伎多我都麻